AR台本

製作 SUNRISE
バンダイビジュアル

THE ビッグオー

44

注⚠意

サンライズアニメ製作用資料です。無断で複製、有償・無償譲渡、貸与、交換等した場合、法律により罰せられる場合があります。

ACT:17

leviathan

修正済

『神の名においてこれを鋳造する。汝ら罪なし』

〈12世紀のドイツの死刑執行人達の刀剣に刻まれた文字より〉

制作スタッフ

企　画	サンライズ
原　作	矢立　肇
コンセプトワーク スーパーバイザー	さとうけいいち

監　督	片山一良

シリーズ構成	小中千昭 片山一良
キャラクターデザイン メカニカルデザイン	さとうけいいち
美術デザイン	佐藤　肇

音　楽	佐橋俊彦
音楽プロデューサー	野崎圭一（ビクターエンタテインメント）

美術監督	太田　大（美峰）
色彩設計	中里智恵
撮影監督	福士　亨（T2）
編　集	山森重之（ジェイフィルム）

音響監督	鶴岡陽太

音響効果	庄　司　雅　弘（フィズサウンド）
録　　音	はた　しょうじ
録音スタジオ	スタジオごんぐ
音響制作	楽　　音　　舎
音響制作担当	杉　山　好　美

ビデオ編集	キュー・テック

制作デスク	田　村　一　彦
アシスタントプロデューサー	石　川　達　大
プロデューサー	杉　田　　　敦
	内　田　健　二
	大　橋　千恵雄

THE ビッグオー

ACT:17

leviathan

脚　本	小中千昭
絵コンテ	片山一良
演　出	佐藤育郎
キャラ作監	
メカ作監	
制作進行	福永義弘

CAST

ロジャー・スミス	……	宮本　充
R・ドロシー	……	矢島晶子
エンジェル	……	篠原恵美
ノーマン	……	清川元夢
ダン・ダストン	……	玄田哲章
アラン・ゲイブリエル	……	
アレックス・ローズウォーター	……	石塚運昇
シュバルツ	……	
インストル	……	
副社長A	……	
副社長B	……	
副社長C	……	

	画面		音声
1	FI　砂丘を登るシュバルツ		
2	あえぎながら進む		
3	望遠鏡なめ登るシュバルツ		
4	砂に埋まった時計塔　ＴＢ		シュバルツ(M)「――例え四十年前に起きた何かが無くとも、人は闇を畏れる存在であった。人はその畏れから目を背け、自らの歴史の記憶すらもその存在が無かった事の様に振るまってきた」
6	パラダイムシティ全景 (サブタイ)		
7	舞い落ちていくボロ包帯 続いて落ちてくるビラ		シュバルツ(M)「だが、四十年という月日は短い様で、あまりにも永い。人の畏れを風化させ、真実を知りたいという欲求までをも風化させようとしている
8	「んっ」と振り向く買い物客		

9	「んっ」と振り向く店の主人		←
10	見上げる通行人　降るビラ		←
11	ビル街に舞うビラ		←
12	地面に落ちるビラ　拾う手		←
13	立ち上がりつつ見る男		← 」
14	もつれあう獣を意匠としたビラの絵		
15	クレーターだらけの軍空港の滑走路　ＰＵ		シュバルツ(M)「真実を知ろうとする事は罪悪だろうか。己が何について恐怖しているかを探求する事が罪悪なのか
16	地下格納庫 ひび割れた天井から光…		← 」

17	18	19	20	21	22
プロペラなめ駆けて来るシュバルツ	放物線を描いてUターン立ち止まり、見上げる	見上げるシュバルツ駐機しているビッグデュオの巨体	回想・ロジャーなめ上昇するビッグデュオのUP	せり上がるビッグデュオ	つり橋なめ旋回するビッグデュオ
		シュバルツ(M)「私は知る為にこの世界に在る。そして、私はその探求によって得たものを、あまねくこの世界に還元するべき存在だ」	シュバルツ(M)「畏れ―。それは我々という矮小な生き物にとって必要なものなのだ	← 」	

23	ミサイル連射		
24	遠景		
25	爆撃機の様なビッグオー		シュバルツ(M)「人が畏れる事を止めた時、人という種は袋小路に入り込み、ただ滅びるのを感傷も無く待つだけの憐れな存在と成り果てる」 ←←←←←←←←
26	クロムバスター照射		(SE) カアッ
27	サイドワインダー点火		(SE) シュバアーーッ！
28	放たれる		
29	INする光線		
30	ビッグデュオをかすめる		
31	街にサイドワインダー突入 大爆発		(SE) ドカーーン
32	ビッグオー　急降下		

33	アタック、２体共ＯＵＴ	
34	クレーター斜面　落る２体	
35	連続パンチのビッグオー	
36	火を噴き壊れる肘関節	
37	舞う右腕　エンジン爆発	（ＳＥ）　ドカーン
38	後退するストライクパイル	
39	止まるデュオにパンチ！	（ＳＥ）　ボガッ!!
40	戻るストライクパイル	（ＳＥ）　ガチン!!
41	地面に衝撃波　デュオ頭爆発	（ＳＥ）　ドカン
42	止まってるデュオ 再起動。全身が震え 立ち上がろうとしかけるが	（ＳＥ）　グォングォン グォングォン ～

←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←←

	立てずに倒れていく		～グオングオン グオングオン グオングオン グオングオン ←←←←
43	無防備に倒れこむ		（SE）　ドシャ―― ←←
44	カクテルを重ねる手と手 チラシが舞い「！」と反応		シュバルツ(M)「目覚めよ。 ←
45	窓越しの外を見る金持ち達		そして知る事を畏れるな ←
46	ドーム内に舞うチラシ		」
47	チラシを見てるエンジェル		
48	顔を上げ、宙を見つめる		エンジェル「シュバルツ…」
49	水面に浮かぶチラシ		

50	砂漠に足跡　ＰＵ 倒れているシュバルツ 風が鳴る…		（ＳＥ）（風）ヒョオオオオオオオオオ ← ←
52	ピクッと動くシュバルツ 砂の中から左手が出て来る		
53	顔を出すシュバルツ 何かを見つけて立ち上がる		
54	彼方に砂に埋もれた遊園地		
55	埋もれたコースター		シュバルツ(M)「思考する事を止めた人間は、存 在する価値の無い生き物だ
56	同、観覧車		←
57	同、乗用人形		←　」
58	観覧車なめ遠方に灯台		

59	立ち、両手を広げて叫ぶシュバルツ	シュバルツ(M)「(エコー)考えよ。二つの世界に分けられた人々よ。今の様な人同士の隔たりが、これからも永遠に続く事を望むので~~は~~ないならば
	OL	←
60	PAN 砂漠に谺する声 突如、砂の柱が吹き上がる	(SE) ドーーン」
61	砂煙を上げながら進む謎の物体	
62	灯台なめ打ち寄せる波 遠い海鳴りがする	(SE) ドドドドド
63	バンザイしたままのシュバルツ PU	シュバルツ(M)「署名、シュバルツ・バルト…」
64	砂を吹き上げ迫る謎の物体 目が見える	

66	セントラルドーム内 パラダイム本社		
68	憮然と机を見つめているダストン		ダストン「…」
69	聞いていたロジャー 間発入れず即答		ロジャー「賞金稼ぎがお望みなら、私は不適格な人選だ」
70	向き合うロジャー達と副社長達 ロジャー　机の上の物を見つめたまま		副社長B「勿論そうだわね。でもあなたは我が社の社主、ミスター・ローズウォーターから直接、依頼を受けているわ」 ロジャー「元新聞記者のマイクル・ゼーバッハは、もうこの街には存在していない」 副社長C「マイクル・ゼーバッハは死んだ。だが、シュバルツ・バルトと名乗る煽動者は戻ってきた」
71	机の上のビラの上に		ロジャー(off)「――その様ですね…。」

	手をやるロジャー 指先で小突いたり 手で表情出す		← だが――、人は自らの考えを人に伝える権利は持っているものだ」
72	険しい表情の三人		副社長A「人心をイタズラに惑わせ、根拠の無い恐怖を吹き込む権利まではない」
73	帽子なめムムッとダストン		ダストン「――」
74	ロジャー　わざとらしく ロジャーを指弾するA		ロジャー「――で、私に何を依頼しようと？」 副社長A「以前、ミスター・ローズウォーターと君との間で交わされた契約は不履行であると、我々は判断した。最後まで責任を持って果したまえ、ロジャー・スミス」
	立ち、抗議するロジャー		ロジャー「――小切手は、彼自身が燃やした。報告してある」
75	机の上のチラシ		副社長A(off)「彼が知っている全てを、君は欲しくはないかね」

76	視線を向ける三人	
77	宙を見つめるロジャー	ロジャー「……」
78	ロジャーを見るダストン	
79	パラダイム本社内 下っていくケーブルカー	（ＳＥ）　ゴトンゴトンゴトンゴトン
80	腕組みのロジャーなめ、 ダストン　他人事の様に ロジャー　感情的になって ロジャー見るダストン ロジャー　少し腕組みを修正して 片手を上げるダストン	ダストン「しぶとく生きていたとはな…」 ロジャー(off)「軍警察の監視下でなど、私は仕事はしない」 ダストン「安心しろ。お前さんに監視などつけない。つけたって無駄だからな」 ロジャー(off)「——ダストン。君には同情すべきだろうな」 ダストン「よしてくれ—— ←

81	寄り　ダストン　苦笑して 窓の外に目をやる	この頃はな、諦めたという訳じゃないんだが…、限界というものを嫌が応でもつきつけられてる感じがしてな…」
82	宙を見つめていたロジャー 静かに断言する ダストンの言葉に「!」と見る	ロジャー「――軍警察は――、特にドーム外の人間にとっては必要な存在だ」 ダストン(off)「黒いメガデウスが登場する前まではな」 ロジャー「――」
83	見つめあう二人　無言の間	
86	下って行くケーブルカー	
87	走るグリフォンの主観 流れる路面とセンターライン	ロジャー(M)「シュバルツが再びこの街に恐怖をもたらそうとしている。しかし、そうなのだろうか。あの男はメガデウスの力の魔力に負けた。再び同じ事 〜

	88	89	90	92	93
尻、チラシがＩＮ〜ＯＵＴ	「んっ」と振り返るロジャー トンネル抜けるグリフォン	構造物なめ走り去る 舞い上がるチラシ ＯＵＴするとセントラルド ーム外観	外を見ているアレックス	マイケル・ゼーバッハの住 居だったアパート 火事の跡がそのまま	部屋の前に立つロジャー 手前をエレベーターが降下
〜 を繰り返すほど、あの男は愚かであ っただろうか——」					（ＳＥ）　ゴウ——ン

94	焼け焦げたタイプライター		
95	入口で立ちつくすロジャー よりTB 焼け落ちた部屋		
96	感慨に浸っているロジャー		
102	立ち止まり、男と対峙する		
103	自然に構えるロジャー		
1 04	大きな煙が立ち登り 笑う男を一瞬かき消す		
1 05	建物の屋根なめビル内のロ ジャー		

カット	画面		音
106	揺れるタイプライター 地鳴りともとれない振動音		(SE) オオオオ〜〜〜 ← ←
107	足元、左右見るロジャー 音元が外からだと気づく		← ←
108	向こうより響いてくる音		← ←
~~109~~	~~ドーム外観　PU~~		←
110	ドーム外壁部 ドア開けて出るロジャー PANはるか彼方を見る		
111	遠くを見つめるロジャー		
112	対岸の砂浜　PAN 地鳴りの様な音が響く		(SE) オオオオオオオ――ン ← ←

113	目を凝らすロジャー		←
114	延々と続く足跡　ＰＤ 砂塵が吹いてきて 足跡を消して行く		シュバルツ(M)「真実を追い求める者、それがこの街にただ一人しかいないなど、おかしな事だとは思わないか？」
120	ピアノバー・アマデウス ピアノ曲が流れてくる		
121	開店前の店内　ＰＡＮ ドロシーの後ろでリズムを とっているインストル		
122	ピアノを弾くドロシーの手		
123	ペダルを操るドロシーの足		

124	ふるえる弦		
125	ドロシーなめ拍子を取っているインストル 終えて体を起すドロシー 小さく拍手するインストル		インストル「とても良いです。ドロシー。 ほんの僅かにテンポに揺らぎが出てきました。それが音楽には ←
126	喜ぶインストル		← (off) 必要なのです」
127	振り向き、微笑むドロシー		ドロシー「ありがとう、インストル」
128	時計		インストル(off)「今日はこのくらいにしましょう。 私は出かけねばなりません」
129	立ち上がるドロシー 店内を見る		ドロシー「――? このお店のお仕事は?」 インストル「ここ数日、お客様が来ないのですよ」

1 30	店内見たまま		ドロシー「――では、どこか他でピアノを弾くの？」 インストル「いいえ、ピアノではなくオルガンです」
	ドロシー、インストル見る		
1 31	教会・パイプオルガンを弾くインストル　PD		（SE）（歌声・続く） ←
132	唄う老若男女　PAN		←
133	最後部から見るドロシー		
1 34	見つめているドロシー		インストル(off)「最近、教会に集まる人が増えているのです。
1 35	オルガンを弾くインストル		← そこで歌う事によって、何かから救われると、みんなは考えているので ～

カット	画面		台詞
			〜す。
136	唄う人々　PAN		←こぼし 理由はわかりませんが、
1 37	オルガンを弾くインストル		← 私の伴奏が少しでもその手助けになるなら…」
138	踵を返し去るドロシー		ドロシー「…」
1 39	教会を背に歩くドロシー 後ろをチラシが舞う		（唄声ここまで）
143	新たな奈落		
1 44	穴の中から見上げたロジャー		シュバルツ(M)「闇を畏れ、深きところを畏れる憐れな者よ。 ←
1 45	梯子を降りるロジャー 壁の材質が新しい物になる		その畏れを克服した時、真実に近づく事が出来る」

	（ＯＬ） 悪夢の中の様な気分 （ＯＬ） さらに降りる		
146	地下回廊　ＰＤ 途中まで降りてるロジャー		
147	幾何学的な通路が分岐……		ロジャー(M)「お前の求める真実とは、単にお前自身が思い描いたものでしかないのではないか。そう考えた方が、今の私の心を穏やかにさせてくれる。だが―― ← 」
148	ロジャー下見て、飛び降り。		
149	ロジャー着地、グラつく		
150	気力で顔上げる		
151	奥から差し込む光		
152	歩くロジャー　襟元緩める		

カット	画面		セリフ
153	広大な地下空間 ミニチュアの街を見る二人 一角にくすんだ部分がある		ロジャー(M)「この地下深きところに眠っていたのが、 ←
154	その全景　TB		← 果してシュバルツの言う真実であったのか。あの、ドロシーの自我を奪おうとしたおぞましいものが、 ←
155	ドロシー庇い走るロジャー。 手前へOUT メガデウスの左手追ってIN		← メガデウスの——、ビッグオーのアーキタイプだとするならー」
156	アオリ　走るドロシー 顔を出しているメガデウス		
157	倒れるメガデウス上のシュバルツ		
158	倒れきるメガデウス 風圧で舞い上る炎		

159	炎に包まれたシュバルツIN		
1 60	歩くロジャーの足 轍の跡がＩＮ 足取りが速くなるロジャー		
161	駆けて来て立ち止まる		
162	神殿の前に立つロジャー		
163	穴を見つめる		ロジャー「これは一体——」
1 64	穴の奥に続く新たなトンネル ＰＤ		
165	意を決し歩き出すロジャー		

166	奥へ歩いて行く		
167	トンネル内を歩くロジャー		
168	水たまりを踏んで行く		
169	歩くロジャー 何か見つける		ロジャー「!?」
170	中央に何かある　TU		
171	来て、立ち止まるロジャー 水たまりに写り込む 中央に打ちかけのタイプ		
172	タイプの紙に手をのばす		
173	体戻し紙を見る。表情変る		

カット入れかえ

カット	画面		台詞
174	紙に打たれた一文　PAN		シュバルツ(off)「真実は一つだけ、それから目を背けていては、いつまでも只の操り人形でしかない(要英訳)」
175	片眉をつり上げるロジャー		
176	同じ文章が何行も続く紙		
177	壁に写ったロジャーの影 紙を握りつぶす くしゃくしゃに丸める		ロジャー(off)「――ふざけるな!!」
178	砂漠に半ば埋もれた灯台 蜃気楼の様に浮かぶドーム群		シュバルツ(M)「誰が最も真実に近いか。それを明らかにしておかねばなるまい。さもなくば、愚かなパラダイムの民は永遠に、人形として踊らされるに違いない」
179	灯台の手すりなめ砂を吹き挙げて迫り来る『何か』 ラスト、灯台の間近に浮上		(SE)　ドドドドドドゥ――ン ← ←

180	181	182	183	184	185	186
砂煙の中、灯台を見つめる 巨大な『何か』 一鳴きして 体をうねらせて砂に没する	渦を巻く砂の流れ	渦に巻き込まれている灯台	沈んでいく。	渦に沈む灯台	沈む灯台よりTB 前方に朽ちた巨大タンカー	タンカーに迫る渦 渦に捕まるタンカー
(SE)　オオオ――ン ←	(SE)　ゴオオオオオ―― ←	← ←	←			

187	起立していくタンカー		
188	渦に飲み込まれて行くタンカー		
189	渦に沈んで行く		
190	積み込まれていたオイルに引火 大爆発、広がる火球		（ＳＥ）ドオオオオオオオン!! ← ←
191	空をおおうドス黒い雲		シュバルツ(M)「真実に近い者、シュバルツ・バルトの言葉を伝える。 ←
192	ドーム群なめ砂漠の上空をおおう黒煙		『想像と記憶は一つのものであって、ただ、呼び方が違っているだけである』」

193	軍警察内廊下 出動ベル鳴り、ランプ回る		（SE） ジリリリリリリ
194	大股歩きで急ぐダストン 脇を走り抜ける警官達		ダストン(M)「事が起ってからしか、動くなと。 それで一体、どうやってこの街を—、 巨大な力を持った、不可解な者達が 襲って来る街を守れという！ ←こぼし
195	軍警察署から飛び出して来る装甲車車両達		（SE） ウ——ウ——ウ——」 ←
196	ドロシーの脇を装甲車車両達がすれ違う		←
197	路地の入口に差しかかるドロシー止まる		←
198	動けないドロシー　ＰＵ		ドロシー「——」

カット	画面		台詞
199	ドロシーの口元　発せられる怪しい機械語 慌てて両手で口元を抑える		ドロシー「□△×○×△×○×× ←――!!」
200	悲鳴にも似た声を上げる		ドロシー「やめて…、あたしにこんな言葉を喋 べらせないで――」
201	自分を操る何者かの気配を 感じるドロシー		
202	金網の棚に紙がひっかかっ ているTU		
203	風に揺れるチラシ		
	OL		
204	グロテスクな姿を見せるビ ッグデュオ		
205	ガガーンのロジャー		ロジャー「――!!」

206	橋の上に立ちすくんでいる ロジャー		
207	所々分解されたデュオが横 たわっている		ロジャー㈲「まさか…」
208	煙に霞むパラダイムシティ		（ＳＥ）　オオオオオ―― シュバルツ(M)「愚かなるパラダイムの民よ、そ こで共に存在し、共に生活を続け、 共通の幻想を抱いている限りそこに は一つの龍が生まれる――」
209	対岸で待ち構える軍警察 ダストンの檄がとぶ		ダストン「（カット尻より）絶対に上陸させる な！
210	双眼鏡覗いたまま叫ぶ		(on)　対岸で食い止めろ！」

シュバルツ(M)を C-211でこぼし

211	砂漠をこがす火災 砂を吹き上げながら迫るモンスター　PAN ダストンの双眼鏡		ダストン(off)「メガデウス… ← (on) この街に来る者達…」
212	ダストン　双眼鏡を降ろす 目線は相手を見据えたまま		
213	ビッグデュオを見降ろしているロジャー		
214	ビッグデュオなめ橋の上のロジャー		ロジャー「こんなところに隠されていたのか……」
215	見つめるロジャー		ロジャー「しかし――
216	分解された頭部　PU		← (off) これをどうするつもりなのだ…？」
217	同、胸部		

218	同、腹部		
219	通路なめロジャー		シュバルツ(M)「メガ、デウス。人が使いし神の力。人などが扱うべきではない力」
2 20	スイッチが並ぶパネル3をONにするアランの手		
2 21	穴が明るくなる気づくロジャー		
222	4、5とONにしていく手		
2 23	明るくなるドック歩き出すロジャー		
2 24	見降ろしたまま歩くロジャー		

225	驚愕の表情へと変る		ロジャー「――そう、だったのか…？」
226	吹き上がる砂柱へ集中砲火		（ＳＥ）（遠い）ドンドンドン
227	一斉に火を吹くランチャー		（ＳＥ）　ドヒュー、ドヒュー、ドヒュー
228	集中砲火をものともせず前進してくるモンスター 砂しぶきが水しぶきに変る		
229	パラダイムシティに向かう水しぶき		
230	個別のドックに横たわる三体のメガデウス　ＰＡＮ		ロジャー(off)「異国から来たメガデウス――
231	歩くロジャー　なかば呆然		← ← ←

232	巧妙に組み込まれた白い別のパーツ、頭		← 本当の目的は——、
233	同、胸		← これだったのか…。
234	同、偽装された両腕		← この中のは——」
235	同、下半身		
236	アレックス　口元ＵＰ		アレックス「ビッグ——」
237	立ち止まり、向くロジャー		ロジャー「——！」
238	ロジャーなめ制御室降下		
239	制御室に乗ったアレックス		
240	見降ろしているアレックス		ロジャー(off)「アレックス・ローズウォーター！」

カット	画面		台詞
241	橋の所まで降りてくる制御室 ロジャー　下方を示し		アレックス「あの見すぼらしい新聞記者とのネゴシエーション、よくやってくれたね」 ロジャー「この中に入っているのが、ビッグオーだと!?」
242	デュオUP		アレックス(off)「赤いメガデウスを新聞記者はビッグデュオと呼んでいた。ビッグ、良い響きだね」
243	三体のメガデウス　PAN		ロジャー(off)「何をしようという気だ。こんなもので――」 アレックス(off)「君なら理解してくれると思っていたが」 ロジャー(off)「どういう事だ」
244	アレックス　少し俯き		アレックス「巨大なるビッグオーを我が物としているのは、君自身の狭量なる価値感、 ←

245	冷たい笑みを浮かべて ロジャー見る		――（冷笑） 正義感、かね？」
246	ムッとなるロジャー		ロジャー「――」
247	アレックスなめニヤついて いるアラン		
248	河中を進むモンスター		
249	火を吹く軍警察のＡＦＶ群		
250	ビル屋上　立つドロシー		
251	遠くを見つめるドロシー		ドロシー「――あなたも――、同じなの…？ 心を失った――」
252	竜の様なモンスター ちょっと浮上してすぐ潜る		

カット	画面	台詞・音
253	突き出した両手を握るアレックス　PAN 楽しそう	アレックス(off)～(on)「それに従って自由に動かす。暴れる、破壊する。さぞ気分が良かろう」
254	港近くの工場 発火と共にエフェクトIN 崩れて行く工場 体をもたげるモンスター 悲しそうに鳴く	(SE)　シュワワワワワ ゴゴゴゴ (SE)　オオオオオオオオ ←
255	唖然と見つめるダストン達	← ダストン「これも――、これもメガデウスなのか…？」
256	上陸したモンスター	(SE)　オオオオオオ――
257	無心に唄う人々　PAN	(唄声) ←

258	その口元		←
259	地下鉄の出入口なめ足をつくモンスター 砂化する地面 崩れて無くなる階段		←
260	ビルを切裂くモンスター手		←
261	ポーズ決めるモンスター 砂化して崩れて行くビル		←
262	崩れるビル 砂化して拡散して消える 雄叫びを上げるモンスター		(SE) オオオオオオ
263	モンスター　PU		シュバルツ(M)「そう、その古えの機械龍は、愚かなるお前達そのものだ。

264	ビルから見つめる人々		←お前たちの~~己~~中の不安、
265	屋上から見つめる人々		←寄って立つものの無い、
266	警官にまじって見る人々		←過去も、そして未来もない——」
2 67	アレックスを睨みつけているロジャー		ロジャー「——私とおなじ気分を味わいたいと？」
2 68	前方を見たままのアレックス		アレックス「ぼくは既に力を持っているさ、人を動かすという」
2 69	距離をおいて立つ二人		ロジャー「（怒りを堪え）では、メガデウスは何の為に欲しい」
2 70	ビッグデュオのコクピット TU		アレックス(off)「——それは象徴だからさ」 ロジャー(off)「何の（鋭く）」

			アレックス(off)「神の力の代行者としての——。(笑)いや、それはこじつけだ。ぼくは、正しくメガデウスを操るだけの資格を予め持って生まれた人間なのだよ。
2 71	ロジャーの拳なめ振り向くアレックス		← 君とは違ってね」
2 72	怒りが頂点に達したロジャー つかつかと歩き出す		ロジャー「——ふざけるな」
2 73	見つめるアレックス TU 微笑んだまま 尻、アランが割ってIN		
2 74	身を引くロジャー ロジャーの顔面を何かが一閃する		

275	パイプの山が崩れる		（SE）　ガランガランガラン
276	更に火花が散る		（SE）　カキーーーン
277A	ロジャー邸キッチン モニター、砂嵐		（SE）　ザーーーッ
277B	見つめているノーマン 送話器をフックにかけて 踵を返す		ノーマン㈲「はて…。 いたしかたありませんかな…」
278	流しの中のシューターに滑り込むノーマン 尻、閉じるドア		
279	喉に剣を突きつけられているロジャー		
280	嬉しくてたまらないアラン		アラン　「いいぞいいぞロジャー・スミス。そうこなくっちゃ♡」

281	剣突きつけられたロジャー。 アランの腹に切れたパイプを突きつけている		
282	余裕のロジャー		ロジャー「おまえのそのニヤけたマスクの下に流れているのが血かオイルか、確かめるのも面白かろう」
283	俯瞰　動けない二人		アラン(背)「お互いの血の色を確かめ合おうぜ」 ロジャー(off)「流れるのはお前の血だけだ」
284	ロジャーの喉元にめり込む剣先		
285	アランの腹にもパイプがめり込んで行く		
286	うんざりのアレックス		アレックス「アラン、美しくないな…」

2 87	アレックス見るアラン ロジャーの上からとびのく	
2 88	スタッと降り立つアラン 礼をしつつ歩いて行く	
2 89	アレックスの後方を通過するアラン	
2 90	パイプを放り投げるロジャー	ロジャー「私を助けたつもりか――」 （ＳＥ）　カン！　カランカラン
2 91	メガデウスなめ橋の上の二人	アレックス「残念ながら、僕のビッグは未だ必要なものが揃ってなくてね。今は未だ、君だけがメガデウス・ドミュナスさ」 ロジャー「何の事だ」 アレックス「ここは電磁隔壁の中。君の通信機は役立たずだ」

292	「何!?」となるロジャー 時計を見てハッとする		ロジャー「――」
293	前を見つめたままのアレックス		
294	画像が乱れている時計のモニター		
295	ライトUPで美しいセントラルドーム		
296	体をのけぞらすモンスター		(SE)　オオオオオオ
297	歩むモンスター　PAN 行く先にドロシーのいるビル		

298	モンスターに魅かれているドロシー		ドロシー「やめて…、お願い…。あたしはあなたの心にはなれない… ←
299	ドロシーなめ現れるモンスター、見つめる		誰も、← ←
300	見つめるドロシー		なれないの…」
301	見つめるモンスター		
302	見つめ合ったままの二者		
303	突如キレるモンスター 腕を振り上げる		（SE）オオオオオオオ ←
304	走ってきて 立ち止まるダストン		← ← ダストン「——！」
305	振り降ろされる腕		

3 06	腕の主観、迫るドロシー 土砂が吹き上がって来る		（SE）　ドゥ――ン ←
3 07	間一髪二者の間に入って 吹っとばす土砂		
308	モンスター吹きとばす土砂		
3 09	地面に叩きつけられるモン スター ビルも壊れる		（SE）　ズズ――ン
3 10	土砂晴れて、ビッグオーの 姿見えている		
311	喜しいダストン		ダストン「メガデウスか!?」
312	モンスターなめビッグオー		

カット	画面		音
313	何も起さないビッグオー		
3 14	異変に気付き乗り出すダストン		ダストン「ロジャー？」
3 15	体を起し立つモンスター 怒っている　ＰＵ		（ＳＥ）ウォォォォォォォ
3 18	ビッグオーに迫るモンスター ーの足		（ＳＥ）ズーンズーン ← ←
319	近付いて行くモンスター		ズーンズーン ←
3 20	モンスターの両手なめビッグオー		ズーンズン ←
3 21	ビッグオーの直前まで来るモンスター		← ズーンズーン ダストン㈲「どうした！」

3 23	ビッグオーなめモンスターの両腕光る　ＰＵ		(off)～(on) ロジャアアア！　動け！　動けぇぇぇぇぇ!!」
322	叫ぶダストン		
3 24	ビッグオーのパンチが決まる		（ＳＥ）　ガガ――ン
325	ふっとぶモンスター		
3 26	高架なめ落下するモンスター		（ＳＥ）　ズ――ン
3 27	地面に叩きつけられるモンスターの頭部		
328	ガッツポーズのダストン		ダストン「――」

329	光るモンスターの頭部	（SE）　ピポピポピポ
330	屋上を走るロジャーの足 再びカマ首をもたげるモンスター	
331	走るロジャー	ロジャー「お前もまた、アーキタイプなのか!?」
332	ビッグオーに向かって走っていく	
333	伸びるアンカー ワイヤーが巻きつく そのままぶらさがって行く	
334	スイングしてくるロジャー UPへ	ロジャー「ビッグオー」

335	ビッグオーの胸元に飛ぶ		
3 36	着地するロジャー 中に駆け込み、「アッ」		ロジャー「――!」
3 37	コクピットにドロシー。 腕の力だけで横へOUT ロジャー着席、レバー握る。 ドロシーを見る		ロジャー(off)「ドロシー?」 ロジャー「どうしてここに?」
338	二人		ロジャー「あいつに呼ばれて来たのかね? ←
3 39	何か思い当たるロジャー 正面を見据える		――いや――、 あるいは、君があいつを…」
340	ドロシー　正面見たまま		ドロシー「あの龍は亡霊だわ…。遥か昔の――」
341	自信満々のロジャーになる		ロジャー「なら、墓に戻ってもらうまでだ。 ←

No.	画面		台詞・音
342	叫ぶロジャー		アアアクション！」
343	迫るモンスター		
344	地面を踏むと、砂地獄出る		
345	ビッグオーに向かう砂地獄		
3 46	足元に達する砂地獄 落ち込む右足		
3 47	滑り落ちるビッグオー 手前、逃げてくるダストン		
3 48	滑り落ちて来るビッグオー TB 待つモンスター		シュバルツ（先行）(M)「猜疑心、 ←
3 49	モンスターPU 口元がピコピコ光る		欲望、畏れ、一人一人のそれは小さ くとも、やがて大きな一つのものと ←

350	かまえた右手が光る		なり姿を現わす」
3 51	負けるもんかのロジャー		ロジャー「シュバルツ、君の予言には無い結末を見せよう！ ←
352	レバーのボタン押す		」
3 53	迫る腕の脇をアークラインがＩＮ		
3 54	モンスターの頭部をふきとばす のけぞるモンスター		
3 55	手前に倒れかかる 両手を突きだして迫る		
356	立つダストン		ダストン「!! まずい！」

357	ビッグオー　身を引き、モンスターの両腕をキャッチ		
358	両腕を握ったまま 立ち上がるビッグオー		
359	力をかけてくるモンスター		
360	こらえるロジャー		
361	ビッグオー　反動つけて相 手の体をねじる モンスターの右手を体に押 しつけ様とする		
362	腰に迫る発光した手 押し戻すが 一気にぐっと接触		

363	宙に広がる波動 もがくモンスター 「カッ」と光ると 光のしぶきが発生		(SE) オオオオオオ ← ←
364	光を見つめる二人		ロジャー「ご機嫌よう、予言されたレヴィアタン
365	見るドロシー 全面Wに		」 ←
367	モンスターの亡骸 TB 舞うチラシ		
368	教会 小さくなってる唄声 その前を舞うチラシ		(唄声・小) ← ←
369	教会内 唄っているのは少数の老人		← ←

3 70	人々の足がチラシを踏んで行く		
3 71	翌日(昼)シュバルツの部屋 コゲたタイプ		ロジャー(off)「『想像と記憶は一つのものであって、ただ呼び方がちがっているだけである』」
3 72	タイプなめ見つめている二人		ドロシー「シュバルツ自身の事だと言いたいの？ロジャー」
373	エンジェル　一人言の様に		エンジェル「そう、だったのかしら…」
3 74	手すりにもたれてるエンジェル 振り向くロジャー達		ロジャー「どういう事だね、エンジェル」
375	見つめるドロシー		
376	エンジェル　下方を見る		

3 77	包帯を取り出して見せる	ロジャー「――何だ」 エンジェル(off)「――シュバルツがばらまいたチラシ印刷されたの、ビッグデュオで暴れる前だったの」
378	向き直るロジャー	ロジャー「――何、だって…？」
3 79	エンジェルの下方に広がる吹き抜けの闇	エンジェル「東の砂漠の向こうにある海岸。そこで死体が発見されたわ。
3 80	ロジャー、ドロシー 戦慄するロジャー	← (off) シュバルツー、マイケル・ゼーバッハは、とっくにこの世からいなくなっていた」 ロジャー「――」
3 81	つき出た鉄筋にからんだ包帯が風になびいている	

382

To Be Continued

次回予告
「The Greatest Villain」